

# 12月によせてー季節の読書案内ー

おおみそか  
大晦日…… 令和2年も残すところ一か月となりました。今年はみなさんにとってどんな一年だったでしょう。来年はより良い年になるといいですね。



## じょやのかね

とうごうなりさ・作  
福音館書店

はじめて「じょやのかね」をつぎに行く男の子の、小さな冒険のお話です。版画で描かれた、年越しの日の夜。男の子はどのように感じたのでしょうか。



## 半沢直樹 アルルカンと道化師

池井戸潤 著 講談社

今年大ヒットドラマとなった「半沢直樹」、小説の6年ぶりの最新作は「絵画」が事件の力ギを握ります。寒い冬はお家で読書が一番！この機会に全シリーズ読破もおすすめです！



## 十二支のはじまり

谷真介・文 赤坂三好・絵  
佼成出版社

ね、うし、とら…動物たちが順番にその年をつかさどる十二支。どうして12の動物たちが選ばれ、その順番が決まったのでしょうか。来年は何年かな？そして、なぜあの動物は選ばれなかったのかな？

寄贈本を頂きました！



## さよならブラック企業 働く人の最後の砦「退職代行」①

外本ケンセイ／著 小澤亜季子／監修  
少年画報社

山都町出身の漫画家「外元ケンセイ」さんの新作コミックスを、図書館にご寄贈頂きました。今や社会問題となった「ブラック企業」の存在。今働いている人、これから働く人、働いている人を支える人…決して他人ごとではない、知ってほしい実態が描かれています。外元さんご寄贈ありがとうございます！

## ★令和3年1月のわくわく号運行予定★

※1月のわくわく号の運行はございません。あらかじめご了承ください。

### ※わくわく号巡回場所募集のお知らせ

山都町立図書館では、わくわく号の巡回場所を募集しています。お1人からでも利用できます。詳しくはお近くの図書館または、山都町教育委員会(72-0443)までご連絡ください。応募締切日令和3年1月31日まで



# 山都町図書館だより

声の灯り  
ー160号ー

## 新型コロナウイルス感染予防について ーもう一度確認しましょう！ー

- 1、体調に不安のある方は来館をご遠慮ください。返却のみの場合は各館の返却ボックスをご利用ください。
- 2、マスクの着用を必ず行ってください。
- 3、入館・退館時・本を触った後は指先の消毒や、手洗いを必ず行ってください。
- 4、『三密』の状態を避ける為。入館の人数制限を行う場合がございます。
- 5、状況に応じて閉館する場合がございます。あらかじめご了承ください。



## 休館のお知らせ

### ・年末年始休館のお知らせ

令和2年12月28日(月曜日)から令和3年1月4日(月曜日)まで

### ・蔵書点検に伴う休館のお知らせ

令和3年1月11日(月曜日)から令和3年1月22日(金曜日)まで、蔵書点検のため休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。本の返却は返却ボックスへお願い致します。CD・DVDは破損の原因となりますので、必ずカウンターにて返却をお願い致します。休館中の連絡先・山都町教育委員会(72-0443)

## ブックセカンドの取り組みを行っています

7か月検診時の赤ちゃんに、絵本2冊をプレゼントする「ブックファースト」の取り組みに続いて、就学を迎える子ども達へ「ブックセカンド」の取り組みを行っています。「ブックセカンド」では、ご家族で本について語り合い、更なる読書習慣へつながるきっかけとなるように、「ふたりはともだち(アーノルド・ノーベル著 三木卓訳 文化出版局)」を、プレゼントしています。この本の中のお話が、小学校2年生の国語の教科書に採用されています。楽しい読書体験を通して、もっとたくさんの本と出会って欲しいですね。



### ●問い合わせ先

|            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| 本館 73-1616 | 開館日：火曜日から金曜日(午前10時から午後6時)          |
| 清和 82-3033 | 土曜日・日曜日(午前10時から午後5時)               |
| 蘇陽 73-2755 | 休館日：月曜日・祝日・月末日 ※都合により変更となる場合があります。 |

書道  
細雨寒燈初夢短断  
猿枯木一聲長

岩下 ミエ子 さん(新小) 作

和光教室書道部

## 季節のうた

馬見原酔山会

一貫の白菜赤子抱くやうに

柿熟るるあれより上は鳥のもの

順番をゆずる若者秋日和

やまなみの会「山脈」

庭のものを紫がちに秋深む

鶉の羽根を拾うて夢はるか

秋天を追ひかけてゆく阿蘇路かな

コロナ禍にまけず「正代」優勝す郷土の力士に拍手を送る

山青く麓にひびく機械音田舎の秋は収穫のあき

きのうより明日が大事とわかりつつ過去のできごとをひきずる

通潤閣法句会

稲架ならび石橋の里晴れ渡る

稲刈りは卒業といふ八十路かな

広き田の一夜浮塵子の意のままに

清和短歌会

白々と蕎麦の花咲く焼畑を転がる如く阿蘇の風来る

茶柱の立つた湯呑みを覗き込む妻の笑顔が湯気の向こうに

紅々と燃ゆる山々秋の夕一日の無事に手重ね拝む